

東京都交通局  
経営計画2022  
TOEI TRANSPORTATION

令和5年度進捗状況

**令和6年10月**

## 「東京都交通局経営計画 2022」 令和 5 年度進捗状況

交通局では、令和 4 年度から 6 年度までの 3 か年を計画期間とする「東京都交通局経営計画 2022」を令和 4 年 3 月に策定しました。

計画 2 年目である令和 5 年度は、計画策定後の状況変化にも対応しながら、掲げた施策の達成に向けて着実に取組を進めました。また令和 5 年度を到達目標とする事業については、4 事業中 3 事業で目標を達成し、財政収支については、収支目標をいずれも達成しました。

令和 5 年度の主な進捗状況については、以下のとおりです。

### 令和 5 年度の主な進捗状況

#### ■安全・安心の確保

- ・浅草線のホームドアについて、西馬込駅など 11 駅で整備を行い、都営地下鉄全駅で設置を完了しました。
- ・三田線三田駅から西巣鴨駅までの 13 駅及び志村三丁目駅から西台駅までの 3 駅において、ホーム床へのくし状ゴム設置を完了するとともに、三田駅においては可動ステップを追加設置しました。
- ・車内防犯カメラについて、新車導入にあわせ、大江戸線 6 編成に設置したほか、既存車両についても令和 6 年度までに設置することとし、機器の発注を行いました。

#### ■質の高いサービスの提供

- ・日暮里・舎人ライナーの車両 4 編成を、座席を全てロングシート化して定員を増やした車両に更新しました。
- ・東京さくらトラム（都電荒川線）において、スタートアップ企業と連携し、都電一日乗車券を用いたデジタル乗車券の実証実験を行いました。
- ・大江戸線 6 編成の車両の更新にあたり、フリースペースの設置など、ユニバーサルデザインの考え方に基づいた「人にやさしい車両」を導入しました。
- ・定期券の WEB 予約サービスを開始し、これまで定期券発売所でしか購入できなかった通学定期券を、都営地下鉄の全ての駅で購入できるようにしました。

#### ■東京の発展への貢献

- ・燃料電池バスを新たに 2 両追加導入し、国内バス事業者最大の累計 75 両を運用するとともに、更なる Z E V 化を進めるため、営業所内への水素ステーション整備を進めました。
- ・東京さくらトラム（都電荒川線）の運行電力を 100% 当局の水力発電由来の電力とすることとし、それを条件の一つとした公募型プロポーザルを行い、水力発電所で発電した電気の売却先を決定しました。
- ・小さなお子様連れのお客様にも安心して気兼ねなく都営地下鉄をご利用いただけるよう、子育て応援スペースの導入を拡大し、累計 53 編成に導入しました。

#### ■持続可能な経営基盤の確立

- ・局資産を有効活用して安定した収入を確保するため、大門庁舎（浜松町）等の利活用に向けた取組を進めるとともに、地下鉄車内の広告用デジタルサイネージや駅構内の未利用スペースを活用したサービス機器の設置など、広告事業や構内営業を進めました。
- ・関連団体と合同採用説明会を開催したほか、WEB を活用したセミナーでの PR や面接などの採用選考を実施しました。また、交通技能職や女性をターゲットにした動画の公開など、応募者の裾野の拡大に向けた採用 PR の充実を図りました。

# 1 安全・安心の確保

## ◆ 安全対策の強化

### (1) 安全管理の持続的向上

#### ■ 安全管理体制の強化

- 輸送の安全に係る基本的な姿勢を示した「安全方針」に基づき、2023年度の安全重点施策を策定し、半期ごとに取組状況を確認して継続的な改善を行うことで、PDCAサイクルを適切に機能させ、安全管理体制の更なる強化を図りました。



【安全管理体制のPDCAサイクル】

#### ■ 各種訓練の充実

- 都営地下鉄では、大規模浸水被害を想定した自然災害対応訓練や、大きな地震により列車が脱線したことを想定した異常時総合訓練、関係機関と連携した帰宅困難者対応訓練等を実施しました。
- 都営バスでは、大規模水害を想定した情報伝達訓練や災害時を想定したIP無線による一斉通信訓練、各事業所におけるテロ・異常時対策訓練等を実施しました。



【異常時総合訓練】



【帰宅困難者対応訓練】

#### ■ 安全に関する教育・指導の徹底

- 都営地下鉄では、職員の異常時対応力の向上を図るため、浅草線の地下鉄運転シミュレータの更新にあわせて、新たに三田線・大江戸線にも対応した多機能シミュレータを導入しました。
- 都営バスでは、基本動作の徹底と安全意識の向上を図るため、少人数の乗務員によるグループ討議やドライブレコーダー画像を活用した安全研修を実施するとともに、運転訓練車\*<sup>1</sup>による安全教育や教習兼用車\*<sup>2</sup>による運転教育を実施しました。

\*1 運転手の視線、車内の揺れ、前方や側方の距離などを計測する様々なセンサーやカメラを搭載したバス車両

\*2 営業用の車両を研修用にも兼用できるよう補助ブレーキを追加したバス車両

#### ■ バス車両の安全装備の更なる改善

- 雨天時の左方の安全確認を行いやすくするため、新車の導入にあわせて、80両のバスの前扉に、くもり止めとしてヒーターガラスを導入しました。

## (2) ホーム事故「0」を目指した取組

### ■ 地下鉄駅のホームドア整備

- 浅草線西馬込駅から高輪台駅までの6駅、浅草橋駅から本所吾妻橋駅までの4駅及び京成電鉄株式会社との共同使用駅である押上駅の計11駅にホームドアを整備し、2024年2月に都営地下鉄全駅で整備を完了しました。



【整備したホームドア】

#### 到達目標

2023年度 浅草線整備完了(都営地下鉄全駅整備完了)

到達済

### ■ 地下鉄駅におけるホームと車両の段差・隙間の縮小（隙間への転落防止策）

- 三田線三田駅から西巢鴨駅までの13駅及び志村三丁目駅から西台駅までの3駅において、ホームへのくし状ゴム設置を完了しました。
- 三田線三田駅への可動ステップ追加設置が完了しました。



【稼働ステップ】

#### 到達目標

2023年度 三田線三田駅への可動ステップ追加設置完了

2024年度 三田線での対策完了 ※当局管理駅

到達済

## ◆ 災害対策等の強化

## (3) 浸水対策の強化

### ■ 浸水対策の強化

#### ① 施設・設備の浸水対策

- 2022年度に策定した「東京都交通局浸水対策施設整備計画」に基づき対策を進め、通風口9か所において対応を完了しました。

#### 到達目標

2022年度 浸水対策に係る整備計画の策定

2024年度 対策工事実施(駅出入口7か所完了、通風口20か所完了)(3か年合計)

到達済

#### ② お客様の安全確保への備え

- 大規模浸水被害を想定した訓練を実施したほか、各駅で「避難確保・浸水防止計画」に基づく訓練を実施しました。

### ③ 早期復旧に向けた対策

- 2022 年度に改定した「交通局危機管理対策計画（風水害編）」に基づき、都営地下鉄、日暮里・舎人ライナー、東京さくらトラム（都電荒川線）において、車両避難訓練を実施しました。

#### 到達目標

2022 年度 「交通局危機管理対策計画(風水害編)」改定

到達済

### （４） 感染症対策の推進

#### ■ 新型コロナウイルス感染症対策の推進

- 新型コロナウイルス感染症の感染症法上の位置付け変更に伴い、5 類移行後の局の感染症対策を決定しました。

#### ■ 交通局危機管理対策計画（新型インフルエンザ等編）の見直し

- 2022 年度に欠員状況に応じた運行体制や応援体制の整備など、これまでの新型コロナウイルス感染症への対応で得た経験を踏まえ、「東京都交通局 BCP（新型インフルエンザ等編）」を改定しました。

### （５） 首都直下地震への備え

#### ■ 地下鉄の早期復旧を図るための耐震対策

- 施設等の安全性をより一層高めるとともに、早期の運行再開を図るための更なる耐震対策として、4 駅で地下部中柱の耐震補強工事を進めました。

#### 到達目標

2024 年度 4 駅補強工事実施(3 か年合計)

### （６） テロ対策等の強化

#### ■ テロ対策等の強化

##### ① 地下鉄車内での防犯対策

- 新車導入にあわせ、大江戸線 6 編成に車内防犯カメラを設置しました。
- 既存車両についても 2024 年度までに設置することとし、2022 年に一部の編成に先行設置して技術的検証を行いました。また、その結果を踏まえ、残りの編成に係る機器の発注を行いました。



【車内防犯カメラ】

#### 到達目標

2024 年度 地下鉄車内防犯カメラ：全車両への導入完了

※計画策定後、既存車両についても設置することとしたため、目標を上方修正

##### ② 異常時対応の強化

- 駅や車両検修場等において、関係機関と連携してテロや NBC 等を想定した訓練を実施し、職員の対応力強化を図りました。

### ③ サイバーセキュリティ対策

- 多様化、高度化していくサイバー攻撃の脅威に対応するため、警視庁サイバーテロ対策協議会や東京都CSIRTなど関係機関と連携し、警戒情報の周知を行うとともに、標的型攻撃メール対策訓練等を実施しました。

## ◆ 安定的な輸送を支える基盤整備

### (7) 施設等の適切な維持・更新

#### ■ 地下鉄構造物の長寿命化

- 浅草線、三田線でトンネル等の補修を進めるとともに、新宿線においては、2022年度の試験施工を踏まえ、止水対策及び天井部の剥落対策を進めました。

到達目標

2022年度 新宿線 試験施工実施

到達済

#### ■ 地上建築物の計画的な修繕・更新

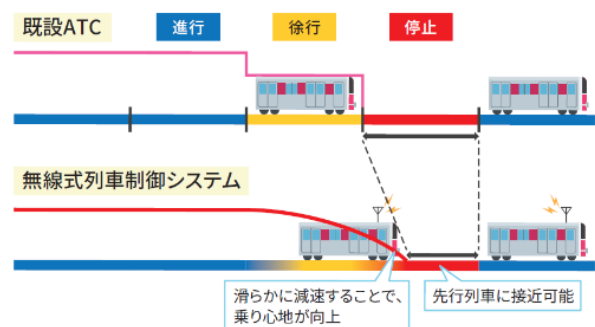
- 大島総合庁舎や江戸川自動車営業所臨海支所の大規模改修等の工事を進めました。

#### ■ 地下鉄駅出入口の老朽化対策

- 老朽化した出入口について、点検結果に基づき改修工事を進めました。

#### ■ 大江戸線への無線式列車制御システム（CBTC）の導入

- 大江戸線では、運転効率や乗り心地を一層向上できるよう、信号保安装置の更新にあわせて無線式列車制御システム（CBTC）の導入を進めており、2027年度の運用開始に向けて、2023年度までに7編成の車両改修を行いました。



【CBTC 導入イメージ】

到達目標

2027年度 運用開始（予定）

#### ■ 大江戸線の電力供給の更なる安定化

- 大江戸線における電力供給の更なる安定化を図るため、大江戸線浜松町変電所（仮称）の新設に向けた変電設備工事を進めました。

到達目標

2025年度 大江戸線浜松町変電所（仮称）竣工（予定）

## ■ 東京さくらトラム（都電荒川線）停留場上屋の更新

- 老朽化している停留場の上屋について、更新に向けた準備を進めましたが、入札不調により工事着手に至らなかったことから、施工方法の見直し等について検討を進めています。

**到達目標**

**2025 年度** 4 停留場更新完了（予定）

## ■ 日暮里・舎人ライナー駅施設の維持修繕

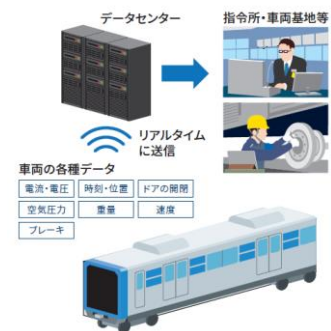
- 日暮里駅等 10 駅でシャッターや自動ドアの修繕工事を完了しました。

## （８）維持管理におけるデジタル活用の推進

### ■ 施設等の状態監視の高頻度化

#### ① 三田線への車両情報収集システムの導入

- 2022 年 10 月から三田線での車両情報収集システムの運用を開始しました。



【車両情報収集システム導入イメージ】

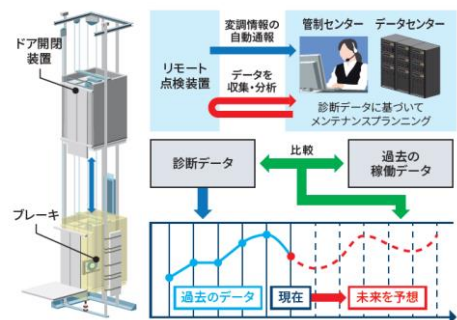
**到達目標**

**2022 年度** 三田線でのシステム運用開始

**到達済**

#### ② 新たな技術を活用したエレベーターの維持管理

- 2022 年度の実証実験を踏まえ、都営地下鉄では、新宿線瑞江駅（1 基）及び三田線巢鴨駅（2 基）に、また、日暮里・舎人ライナーでは、全駅（41 基）に遠隔点検システムを導入しました。



【エレベーターの遠隔点検システム導入イメージ】

#### ③ 通信用蓄電池の遠隔監視システムの導入

- 遠隔監視システムで取得した蓄電池の電圧・電流、周囲温度等のデータを解析して、経年劣化により故障するまでの推定年数の把握が可能となりました。

## ■ 施設等の点検精度の向上

#### ① 新たな電車線検測手法の導入

- 大江戸線において、電車線の新たな検測手法を導入するための装置製作に向けて検討を進めました。

② **AI を活用した転てつ機のメンテナンス**

- 故障予兆の把握や点検・更新周期等の最適化に向け、2022 年度に構築したデータサーバを活用し、蓄積したデータを解析しました。

③ **軌道管理のデジタル化**

- レール計測車の導入に向け、台車や車体、データ収集装置の製作状況を確認するとともに、レールの変位データや補修履歴等各種データの一元的な管理ができるよう、保線管理システムの改修作業を行いました。

**到達目標**

**2024 年度** レール計測車の導入・新システム運用開始

④ **地下鉄構造物の維持管理におけるタブレット端末等の導入**

- 三田線及び大江戸線の一部で、タブレット端末を活用した地下鉄構造物の点検を開始しました。

**到達目標**

**2024 年度** 地下鉄全線でのタブレットによる点検開始

---

◆ **安定的な電力供給を支える基盤整備**

---

(9) **安定的な電力供給を支える基盤整備**

■ **発電所施設の大規模更新**

- 多摩川第一発電所及び多摩川第三発電所の大規模更新に向けて、実施設計を進めました。

**到達目標**

**2027 年度** 多摩川第一発電所 大規模更新完了（予定）

**2028 年度** 多摩川第三発電所 大規模更新完了（予定）

## 2 質の高いサービスの提供

### ◆ 輸送需要への的確な対応

#### (10) 輸送需要への的確な対応

##### ■ ダイヤの適正化

- 都営地下鉄及び都営バスにおいて、お客様のご利用状況を踏まえ、ダイヤ改正を実施しました。

##### ■ 地下鉄車両の長編成化

- 三田線について、車両更新にあわせて一部の編成を6両から8両編成に増強し、2022年5月から運行を開始しました。
- 新宿線について、2022年度に全編成の10両編成化を完了しました。



【三田線新型車両】

#### 到達目標

2022年度 三田線 8両編成運行開始

到達済

2022年度 新宿線 全編成 10両化

到達済

##### ■ 日暮里・舎人ライナー車両の更新

- 2022年度に引き続き、日暮里・舎人ライナーの車両4編成を、座席を全てロングシート化して定員を増やした車両に更新しました。



【日暮里・舎人ライナー車両】

#### 到達目標

2024年度 12編成更新(3か年合計)

##### ■ オフピーク通勤等に向けた取組

###### ① ToKoPoの活用

- 都営交通の会員制ポイントサービス「ToKoPo」を活用し、「日暮里・舎人ライナー 冬の時差 Biz キャンペーン」を実施しました。

## ② 混雑予測情報の提供

- 2021年3月より、混雑予測情報を都営交通アプリでお客様に提供しており、三田線の車両更新にあわせて導入した車両情報収集システムにより効率的に収集したデータを活用し、混雑予測情報に反映しました。

## ■ 地下鉄12号線（大江戸線）大泉学園町方面への延伸

- 庁内検討PTにおいて、最新の状況変化を踏まえた旅客需要の推計や収支採算性の検証等を行うとともに、関係者と事業化について調整を進めました。

# ◆ 公共交通ネットワークの利便性向上

## (11) 公共交通ネットワークの利便性向上

### ■ 東京の地下鉄サービスの一体化の推進

- 東京メトロと連携し、両者の公式アプリを介したクルーズツアーの予約サービスを開始するなど、地下鉄サービスの一体化に取り組みました。

### ■ 東急新横浜線との直通運転に向けた準備

- 三田線において、2023年3月から東急新横浜線との直通運転を開始しました。

到達目標

2022年度 東急新横浜線との直通運転開始

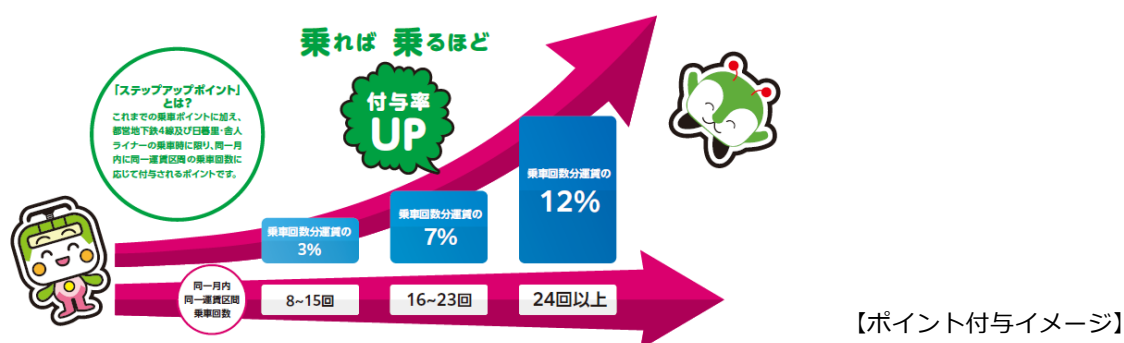
到達済

### ■ 魅力的な企画乗車券の販売

- Tokyo Subway Ticket について、メッセージアプリ「WeChat」での購入も可能とすることで、販路を拡大しました。
- 東京さくらトラム（都電荒川線）において、スタートアップ企業と連携し、都電一日乗車券として利用できるデジタル乗車券の実証実験を行いました。

### ■ ToKoPo の魅力向上

- 都営交通の利用者の拡大を図るとともに、様々な利用機会を創出していくため、乗れば乗るほどポイント付与率がアップする新たなポイントサービス「ToKoPo ステップアップボーナス」を開始したほか、新規入会者に対しポイントをプレゼントするキャンペーンなどを行いました。



到達目標

2030年度 会員数 20 万人(予定)

## ■ MaaS の推進

- 都営交通・東京メトロの公式アプリを介して、東京湾のクルーズ船「シンフォニー」の様々なコースを予約できるサービスを開始しました。

## ◆ 便利で快適な移動空間の創出

### (12) 駅空間の質的向上

#### ■ バリアフリールート of 充実

- 大江戸線勝どき駅で再開発事業との連携によりエレベーターを整備し、バリアフリールートの複数化を進めました。

#### 到達目標

**2024 年度** エレベーター6 駅整備(3 か年合計)

#### ■ トイレの改修

- 新宿線瑞江駅等で機能性と清潔感を備えたトイレにグレードアップするための改修工事を進めました。

#### 到達目標

**2024 年度** 9 か所改修(3 か年合計)

#### ■ 地下鉄駅におけるホームと車両の段差・隙間の縮小(車いす利用者の単独乗降に向けた環境整備)

- 三田線三田駅から西巣鴨駅までの13 駅及び志村三丁目駅から西台駅までの3 駅において、ホーム床の改修工事(かさ上げ・くし状ゴムの設置)を完了しました。

#### 到達目標

**2024 年度** 三田線での対策完了 ※当局管理駅

### (13) 地下鉄車両の快適性向上

#### ■ 人にやさしい地下鉄車両の導入

- 大江戸線6 編成の車両の更新にあたり、フリースペースの設置など、ユニバーサルデザインの考え方に基づいた「人にやさしい車両」を導入しました。



【フリースペース】

#### 到達目標

**2024 年度** 三田線4 編成、新宿線4 編成、大江戸線9 編成 (3 か年合計)

※計画策定後、大江戸線1 編成を追加整備することとしたため、目標を上方修正

## ■ 大江戸線の車内騒音低減

- 曲線走行時における車内騒音の低減に向けた操舵台車を試験導入するため、設計・製造を進めるとともに、保守方法を検討しました。

**到達目標**

**2024 年度** 操舵台車の試験導入

## (14) バスの快適性・利便性向上

### ■ 停留所上屋・ベンチの整備

- バス停留所上屋 20 棟を新設、24 棟を建替えたほか、ベンチを 57 基整備し、到達目標を前倒しで達成しました。

**到達目標**

**2024 年度** 上屋 60 棟整備、ベンチ 60 基整備（3 か年合計）

**到達済**

### ■ バス車内における案内サービスの充実

- 新車 82 両の導入にあわせて、車内中央の天井部に次停留所名を表示するモニターを設置しました。



【バス車内中央の天井に設置したモニター】

**到達目標**

**2024 年度** 240 基設置(3 か年合計)

## ◆ お客様のニーズに応えたサービスの展開

## (15) 案内サインや情報提供の充実

### ■ 地下鉄駅の案内サインの改修

- 浅草線馬込駅など 4 駅の案内サインの改修工事を進めました。



【案内サイン（左：改修前、右：改修後）】

**到達目標**

**2026 年度** 全駅完了(予定) ※当局管理駅

### ■ デジタル技術を活用した案内・情報提供

#### ① ロボットコンシェルジュ等の活用

大江戸線新宿西口駅と浅草線新橋駅において、ロボットコンシェルジュの運用状況について検証を行いました。

## ② 業務用掲示板等のデジタル化

- 大江戸線都庁前駅に設置した翻訳透明ディスプレイを活用し、お客様への情報提供を行う実証実験を実施しました。

## ③ スマートフォンを活用した移動支援

- 大江戸線都庁前駅において、非接触によるエレベーターの呼び出し機能の実証実験を実施するとともに、地下鉄に不慣れな方も迷わずご利用いただけるよう、ARを活用したスマートフォンによるナビゲーションサービスを開始しました。

# (16) 新たな駅サービスの展開

## ■ 定期券 WEB 予約サービスの導入

- 定期券の WEB 予約サービスを開始し、これまで定期券発売所でしか購入できなかった通学定期券を、都営地下鉄の全ての駅で購入できるようにしました。

到達目標

2023 年度 定期券 WEB 予約サービスの運用開始

到達済

## ■ デジタル技術を活用した駅サービスの推進

### ① 地下駅での 5 G 環境の実装に向けた取組

- 2022 年度に大江戸線都庁前駅において、民間事業者と協力し、「インフラシェアリング方式」による 5 G 環境を全国で初めて地下鉄駅構内に整備するとともに、AI カメラの映像解析による駅係員の接客サービスへの活用等について実証実験を実施しました。
- 大江戸線都庁前駅において、OpenRoaming を活用し、利用状況の把握やプッシュ通知の有効性検証などに向けて更なる実証実験を実施しました。

到達目標

2022 年度 都庁前駅での実証実験

到達済

### ② 駅業務へのロボットの活用検討

- 清掃など様々な駅業務へのロボットの活用について検討を行いました。

# (17) お客様ニーズに即した駅構内サービスの展開

## ■ お客様ニーズに即した駅構内サービスの展開

- 大江戸線上野御徒町駅において、育児用品を扱う自動販売機とベビーカーレンタル機器を導入し、既設の授乳室と併せて「こどもスマイルスポット」として整備しました。
- 個室型ワークブースや冷凍ケーキ自動販売機、モバイルバッテリースタンド、無人で鍵の受け渡しができるサービス機器を設置するなど、お客様ニーズに即したサービスの展開を図りました。



【大江戸線上野御徒町駅の「こどもスマイルスポット」】



【三田線日比谷駅の個室型ワークブース】

## (18) 多角的な広報の展開

### ■ 多角的な広報の展開

- 広報誌や SNS など、様々なツールを活用し、都営交通の取組やイベント、沿線情報などの情報を発信しました。
- また、外国人向けの東京都公式 Facebook (Tokyo Gov)・公式 X (Tokyo Gov) など活用し、こどもスマイルスポットの開設等について、幅広くお知らせしました。

## ◆ サービス品質の持続的向上

## (19) お客様の視点に立ったサービスの提供

### ■ サービス向上策の検討、実施

- 職員の接客や施設の現状など、各サービスのレベルを調査・評価する「都営交通モニター制度」を活用し、幅広い世代からいただいたご意見を参考に、サービス向上に努めました。
- サービス推進強化月間（10 月）を設定し、重点項目を定めて各職場においてサービス推進活動に取り組みました。また、「交通局サービス推進発表会」や研修を実施し、組織全体のサービスレベルの向上を図りました。

### ■ 多様なニーズを踏まえた接遇の実施

- 職員の対応力向上を図るため、英会話研修、障害者対応研修、認知症サポーター養成研修等を実施するとともに、サービス介助士の資格取得を進めました。

## (20) 公共交通機関を気持ち良くご利用いただくための取組

### ■ 誰もが快適にご利用いただくための取組

- 歩きスマホ等をテーマにしたマナーポスターやマナー動画を作成し、駅や車内モニター、ホームページで PR を行うとともに、都内の小学 4 年生を対象に「楽しく乗ろう！交通マナーブック」を作成・配布しました。



【マナーポスター】



【交通マナーブック】

### 3 東京の発展への貢献

#### ◆ まちづくりとの連携

##### (21) 浅草線のリニューアル・プロジェクト

###### ■ 駅構内の改装

- 東銀座駅について改装工事を進めるとともに、三田駅について設計が完了しました。
- 五反田駅及び東日本橋駅について、設計を進めました。

###### 到達目標

**2024 年度** 東銀座駅改装完了

###### ■ 駅施設の大規模改良

###### ① 浅草駅出入口の新設・更新

- バリアフリー化された新たな出入口の整備に向けた協議を進めるとともに、既存出入口の更新に向けて、代替となる出入口整備の設計を完了し、準備工事に着手しました。

###### ② 高輪台駅のエレベーター新設

- 周辺街路整備事業との調整を図りながら、ホームとコンコースとの間のエレベーター整備について、関係機関との協議や設計等を進めました。

###### ③ 日本橋駅の新改札・地下連絡通路整備

- 駅周辺の再開発事業者と協力しながら、相対式ホームを繋ぐ地下連絡通路や新たな改札口、エレベーター等の整備に関する工事を進めました。

##### (22) まちづくりと一体となった泉岳寺駅の大規模改良

###### ■ 泉岳寺駅の大規模改良

- ホームの拡張やコンコースの拡張、エレベーターの増設など大規模改良に向け、土留め工事及び掘削工事に着手しました。

###### 到達目標

**2027 年度** 拡張ホーム供用開始(予定)

##### (23) 民間事業者等と連携した新宿駅西南口地区の再編

###### ■ 民間事業者等と連携した新宿駅西南口地区の再編

- ミヤコ新宿ビルを含む「新宿駅西南口地区開発計画」の実現に協力するため、事業主体である民間事業者との間で協議を進め、再開発への参画合意書を締結しました。

## (24) 5G等を活用したまちづくりへの貢献

### ■ アセット開放を通じた5G整備への協力

- 5G アンテナ基地局の設置促進に向け、保有するアセット（資産）の公開や関係者との調整を行いました。

### ■ バスの自動運転技術等の検証

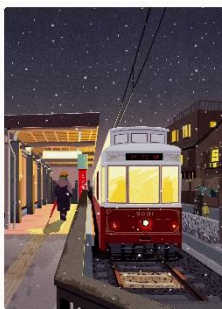
- 自動運転に関する検討会等への参加や西新宿エリアでの自動運転バス実証実験への協力に加え、新たに臨海副都心エリアでの実証実験への協力を行いました。

## ◆ 沿線地域との連携

## (25) 多様な主体との連携による沿線地域活性化

### ■ 多様な主体との連携による沿線地域活性化

- 「東京さくらトラム×沿線飲食店コラボレーション企画」や公衆浴場組合等とのコラボイベントを実施するなど、沿線地域の活性化に向けた取組を推進しました。



【沿線飲食店コラボ企画】



【公衆浴場組合等とのコラボイベント】



【出版社とのコラボイベント】

### ■ 都営交通オリジナルショップ（仮称）の開設

- 店舗の名称を沿線セレクトショップ「とえいろ」に決定して開設準備を進め、設計等に想定以上の時間を要したものの、2024年5月に開設しました。



【新宿線市ヶ谷駅構内にオープンした沿線セレクトショップ「とえいろ」】

到達目標

2023年度 都営交通オリジナルショップ(仮称)開設

未達成

## (26) 発電所立地地域への貢献

### ■ 発電所立地地域への貢献

- 白丸発電所・白丸調整池ダムの近傍に、電気自動車用急速充電器を設置することとしました。
- 地元自治体と連携し、引き続き白丸調整池ダムの巡視路を開放しました。
- また、地元花火大会への協賛を行うほか、都内イベント等において、ノベルティーグッズを配布し、電気事業のPRを行いました。



【夏休みわくわく子どもキャンペーン『白丸ダムアカデミー』の様子】

## ◆ 持続可能な社会の実現への貢献

## (27) 環境に配慮したバス車両の導入

### ■ バスのZEV化の推進

- 燃料電池バスを新たに2両追加導入し、2023年度末時点で国内バス事業者最大の累計75両を運用しています。
- 更なるZEV化を進めるため、営業所内への水素ステーション整備に向けて、整備・運営を行う事業者を選定し、協定を締結しました。
- また、大都市におけるEVバス導入モデルの構築に向け、民間事業者と事業連携協定を締結しました。



【燃料電池バス】

### 到達目標

2024年度 燃料電池バス 累計80両導入

### ■ 低公害バス車両の導入

- 更新したディーゼル車両80両は、全て最新の排出ガス規制に適合した車両とし、窒素酸化物（NOx）・粒子状物質（PM）等の削減に努めました。

## (28) 省エネの推進と再生可能エネルギーの導入拡大

### ■ LED照明の導入拡大

#### ① バス停留所へのLED照明の設置拡大

- 更新等にあわせ、バス停留所上屋44棟及び標識柱100基の照明をLED化しました。

### 到達目標

2024年度

上屋：60棟（3か年合計）

標識柱：300基（3か年合計）

## ② 地下鉄駅等の LED 化

- 新宿線森下駅など 5 駅の照明及び大江戸線新宿西口駅など 8 駅の出入口案内サインについて、LED 化する準備を進めました。また、地下鉄トンネルの LED 化を進めました。

### 到達目標

**2026 年度** 出入口案内サイン整備完了(予定) ※当局管理駅  
**2027 年度** 駅照明 LED 化完了(予定)

## ③ 庁舎・営業所等の LED 化

- 大島総合庁舎及び江戸川自動車営業所臨海支所の大規模改修等の工事にあわせ、照明の LED 化改修工事を進めました。

## ■ 省エネ運転の促進

- バスの運転状況や燃料消費量を記録するエコドライブ用機器の活用により、省エネ運転の促進を図り、燃料消費の抑制に努めました。

## ■ 東京さくらトラム（都電荒川線）への再生可能エネルギーの導入

- 東京さくらトラム（都電荒川線）の運行電力を 100%当局の水力発電由来の電力とすることとし、それを条件の一つとした公募型プロポーザルを行い、水力発電所で発電した電気の売却先を決定しました。

## ■ 庁舎への太陽光発電設備の設置

- 大島総合庁舎及び江戸川自動車営業所臨海支所の屋上への太陽光発電設備の設置に向け、工事を進めました。

## ■ 「東京産水力発電の環境価値」の活用

- 公募型プロポーザルにより選定した事業者を通じて、都内の需要家に水力発電による CO2 フリー電気を販売するとともに、事業者と協業して製作したポスターを通じて、再生可能エネルギーの普及・拡大を図りました。
- 交通局においても、自ら発電した水力発電による電気を都営バス全営業所で使用しています。
- 関係局と連携し、白丸発電所の近傍に、水力発電所の電気を活用した EV 用急速充電器を設置することとしました。

## (29) 公共交通の利用促進等による環境負荷の低減

### ■ 環境 PR による都営交通の利用促進

- 都営交通の環境負荷低減に資する取組や公共交通の環境優位性について、ポスターや車内モニターを活用し、積極的に PR しました。

### ■ ToKoPo を活用した取組

- 6 月の環境月間にあわせ、ToKoPo エコボーナスキャンペーンを実施したほか、ロハスフェスタ東京 2023 に来場した ToKoPo 会員にポイントを付与するキャンペーンを実施しました。

## ■ 自転車シェアリングとの連携

都営地下鉄 11 駅で、近隣にあるサイクルポートの設置場所を案内するピクトグラムを新設しました。



【サイクルポートを案内するピクトグラム】

## ■ 東京さくらトラム（都電荒川線）の軌道緑化

- これまでの実証実験等を通じて得られた費用面等の課題について引き続き検討するとともに、設置している緑化器材の維持管理を行いました。

---

## ◆ 福祉施策への貢献

---

### (30) 福祉施策への貢献

#### ■ 福祉インフラ整備への協力

- 中野坂上の局有地で保育所が竣工するなど、貸付を通じて保育施設整備に協力しました。また、保育所整備等に活用可能な局有地の洗い出しを行い、「都有地活用推進本部」を通じて、区市等に候補地の情報を提供しました。

#### ■ 子育て応援スペースの導入拡大

- 小さなお子様連れのお客様にも安心して気兼ねなく都営地下鉄をご利用いただけるよう、子育て応援スペースの導入を拡大し、累計 53 編成に導入しました。
- また、志村車両検修場において、三田線の子育て応援スペースを活用した絵本の読み聞かせイベントを実施しました。



【絵本の読み聞かせイベント】

到達目標

2024 年度 累計 71 編成導入

#### ■ ヘルプマークの普及への協力

- 都営地下鉄各駅や都営バス営業所等でヘルプマークを配布するとともに、車両の優先席上部の窓及び優先席付近のホームドアへのステッカーの掲出や駅でのポスター掲出等を行いました。

---

## ◆ 都政情報などの発信等への協力

---

### (31) 都政情報などの発信等への協力

#### ■ 局媒体を活用した都政情報等の発信

- 都営地下鉄や都営バスの車内液晶モニター等を活用し、都政に関する情報や他の自治体の観光案内等の発信に協力しました。



【地下鉄車内の液晶モニター】

#### ■ オープンデータの推進

- 公共交通オープンデータセンターや、東京都オープンデータカタログサイトを通じて、時刻表や運行情報などのデータを提供しました。

## 4 持続可能な経営基盤の確立

### ◆ 関連事業の強化

#### (32) 関連事業の強化

##### ■ 資産の利活用

- 大門庁舎を事業区域に含む浜松町二丁目地区市街地再開発事業について、施設建築物等の整備工事を継続して進めたほか、竣工後の利活用に向けた準備を進めました。
- 都営バス新宿支所を事業区域に含む西新宿三丁目西地区市街地再開発事業について、再開発組合を通じ、施設計画の検討を進めました。

##### 到達目標

**2025 年度** 大門庁舎（浜松町） 利活用開始(予定)

**2029 年度以降** 都営バス新宿支所 利活用開始(予定)

##### ■ 広告事業の積極的展開

- 車両更新にあわせ広告用デジタルサイネージを設置し、車内デジタル広告の販売を拡大しました。
- 燃料電池バスのラッピング広告の販売を開始したほか、応援広告の販売を試行するなど、新たな広告商品の開発を行いました。
- 広告板が設置されていないバス停留所上屋 10 棟に広告板を設置しました。



【燃料電池バスラッピング広告】

##### ■ お客様ニーズに即した構内店舗等の展開

- 駅構内における店舗跡地等の未利用スペースの活用方法を検討し、スイーツ販売等の催事を行うとともに、新たに冷凍ケーキ自販機を設置するなどサービス機器の充実を図りました。
- 積極的な店舗誘致活動を行い、浅草線浅草橋駅、三田線大手町駅及び神保町駅で開店に向けた準備を進めました。



【冷凍ケーキ自販機（新宿線新宿三丁目駅）】

##### ■ 通信事業の推進

- 地下鉄駅空間への 5 G 環境の整備について関係機関との協議を進め、大江戸線都庁前駅で通信事業者による 5 G サービスを開始するとともに、新宿西口駅ほか 12 駅では設置工事を開始しました。

---

## ◆ 事業運営を支える人材の確保と育成

---

### (33) 事業運営を支える人材の確保と育成

#### ■ 運輸系職員の人材確保

- 交通局と関連団体とで合同採用説明会を開催したほか、全職種において WEB セミナーを活用した PR を実施するとともに、WEB 申込や WEB 面接など ICT を活用した採用選考を実施しました。
- バス養成枠の制度を解説する動画や交通技能職及び女性をターゲットにした動画の公開、局イベントへの採用 PR ブースの出展など、応募者の裾野の拡大に向けて採用 PR の充実を図りました。

#### ■ 人材育成機能の強化

- 職員一人ひとりの能力開発とキャリアプランの形成を図るため作成した「交通局人材育成ビジョン」を職員に周知するとともに、各現場の実務の中核を担う職員の確保・育成等について検討を進めました。

#### ■ 職務に関する知識・技術の継承

- 職員の研修について、オンラインツールも活用しながら計画的に実施するとともに、ベテラン職員が培ってきた技術やノウハウの継承を進めるため、各職場で研修や OJT を実施しました。
- 保守職員を対象に、外部の技術専門機関等を活用した専門研修を実施するとともに、電気や保線等の各職場に設置している模擬実習設備を活用した実践的な研修・訓練を行いました。
- グループ一体となって人材の確保・育成を進めるため、関連団体から局への研修生の受入れに加え、局から団体への研修派遣を実施しました。

---

## ◆ 全ての職員が活躍できる職場環境づくり

---

### (34) ダイバーシティの推進

#### ■ ダイバーシティの推進

- 職員一人ひとりのライフ・ワーク・バランスの実現に向けて、介護と仕事の両立支援に向けた職員同士の座談会や超過勤務縮減に向けた取組を実施するとともに、テレワークの活用促進を図りました。
- 施設の大規模改修等にあわせ、女性用の仮泊室等の整備を進めました。

### (35) コンプライアンスの推進

#### ■ コンプライアンスの推進

- 職員一人ひとりが法令等を遵守し、高い規範意識を持ちながら業務を常に見つめ直し、信頼され支持される都営交通を実現できるよう、コンプライアンス研修を実施したほか、コンプライアンス推進運動の強化や飲酒事故防止運動、コンプライアンス通信の発行等の各種取組を実施しました。

### (36) 職員の健康管理の推進

#### ■ 職員の健康管理の推進

- 各職場で健康なんでも相談やストレスチェック、新任・転入管理監督者向けのメンタルヘルス研修等を実施しました。

- 対象の乗務員に SAS（睡眠時無呼吸症候群）検診及び脳 MRI 健診を実施し、必要に応じて適切な治療につなげました。

## ◆ 事業運営を支える執行体制の構築

### (37) 効率的・効果的な事業運営の推進

#### ■ デジタル技術を活用した業務環境の整備

- WEB 会議環境の拡充など、デジタル技術を活用した新たな業務環境の整備に向けて、都の関連部署と連携しながら、システム構成に係る設計等を行いました。
- 都庁舎における未来型オフィス導入に向けてレイアウト検討等の準備を進めました。

#### 到達目標

**2025 年度** 新たなデジタル環境の運用開始(予定)

#### ■ 内部管理事務の効率化

- 一部の職場において、旅費や給与等の庶務事務をデジタル化しました。
- 年末調整のデジタル化に向けて、一部の部署で試験運用を行い、課題の洗い出しと導入に向けた改善・検討を進めました。

#### 到達目標

**2024 年度** 全職場での運用開始

#### ■ 地下鉄の定期券発売業務の見直し

- 定期券の WEB 予約サービスを開始し、これまで定期券発売所でしか購入できなかった通学定期券を、都営地下鉄の全ての駅で購入できるようにしました。あわせて、利用実績を踏まえ、2023 年 12 月に新宿線馬喰横山駅の定期券発売所を廃止しました。

#### ■ デジタル技術を活用したバスの乗降調査方法の検討

- デジタル技術を活用したバスの乗降調査方法について、メーカー等にヒアリングを実施しました。

#### ■ 維持管理におけるデジタル活用の推進

- エレベーターの遠隔点検システムを、都営地下鉄の 2 駅（3 基）と日暮里・舎人ライナーの全駅（41 基）に導入するとともに、三田線及び大江戸線でタブレット端末を活用した地下鉄構造物の点検を開始するなど、デジタル技術の活用により施設等の点検精度の向上を図りました。

#### ■ 不断の業務改善への取組

- 自ら業務を改善する組織風土を醸成するため、職員の提案による優れた取組を表彰したほか、技術発表会を開催しました。
- DX 関連の優れた提案についての表彰制度を新たに設けました。

### **(38) 組織の見直しによる執行体制の再構築**

#### **■ 組織の見直しによる執行体制の再構築**

- 交通局を取り巻く厳しい事業環境に対応するため、新たな技術の活用や多様な主体との連携の推進などに向けた執行体制の構築を図りました。

### **(39) 体系的なリスクマネジメントの推進**

#### **■ 体系的なリスクマネジメントの推進**

- 各部署における様々なリスクを網羅的に洗い出した上で、取組計画を策定し、「リスクマネジメント委員会」により定期的に取り組状況の確認を行うことで、体系的に進捗管理や改善を実施しました。

### **(40) グループ経営の推進**

#### **■ グループ経営の推進**

- 安定的で持続可能な運営体制を構築するため、発電所の運転監視・点検等の業務について、政策連携団体への委託範囲を拡大しました。
- グループ一体となって人材の確保・育成を進めるため、関連団体から局への研修生の受入れに加え、局から団体への研修派遣を実施しました。
- 経営課題等について定期的に意見交換を実施し、政策連携団体との連携強化を図りました。